

伯耆町の課題

地域資源活用と 地域産業活性化



▲大山

伯耆町は、国立公園大山を中心に魅力あふれる観光地や施設が豊富に整備されています。しかしながら、観光地、施設、そして産業間などそれぞれの連携による効果は、発揮されていません。



▲スマイルドーム大山望

また、高速交通網の整備に伴って観光にとつて有利な条件となる一方で、日帰りや周辺観光地への通過地となるなどの傾向が見られます。

このため、多様な地域資源や地域産業の連携を強め、相乗効果を創出する取り組みが必要です。今後、地域間競争がますます激化すると予想されており、地域の特色を活かした力強い産業構造をどのように築いていくかが大きな問題です。

主要な施策

○特産品開発とグリーンツーリズムの推進

特産品開発体制の強化／花き生産や畜産等の観光連携／適地適産の推進／グリーンツーリズムのモデル拠点づくり／市民農園の整備／体験プログラムの充実／生産者と消費者の交流

○ブランド化を推進する専門機関の設置や販売体制の強化

地域の情報発信やブランド化／専門的人材の確保・育成／販路開拓や営業力の強化／専門職員の配置／イメージキャラクター・キャッチフレーズの制定

○交流拠点の連携と広域観光の推進

榎水高原・スキー場・大山ガーデンプレイス・スマイルドーム大山望・ペンション村・とっとり花回廊等の連携

○企業誘致による雇用の場の確保と地域イメージアップ

企業誘致活動の推進／誘致条件の整備／企業との連携強化／起業家の支援

地域産業を育む 取り組み

地域のイメージアップ、存在感の向上を目指して地域資源を活かしてブランド化を図る「ブランド育成プロジェクト」を展開します。

このプロジェクトでは、

特産品開発やグリーンツーリズムなどの地域資源を活かした取り組みにより地域住民の雇用の創出と地域のブランド化を図ります。また、国立公園大山やとっとり花回廊を軸にして、地域の観光拠点施設の連携を図り、広域観光を推進します。そして企業誘致は、雇

用場の創設や地域のイメージアップにつながる重要な施策として位置づけられ、地域の活性化に大きな役割を果たします。一方、本町や土地開発公社は、4つの工業団地を所有しており、今後これらの分譲を含めて積極的に誘致活動を推進していきます。